読むだけでなく子どもが参加できるおはなしづくりを心がけています

おはなし作家・保育士　茂木亜希子さん

日本豆類協会には、ポスターなどに登場している、豆のイメージキャラクターがある。えんどう豆など８種類の豆が登場する「まめエイト」だ。この「まめエイト」が主役の絵本、『だいすき！ まめエイト』、『ありがとう！まめエイト』のストーリーを書いた茂木亜希子さんに、絵本づくりや保育士としての活動などについてお話を伺った。

「まめエイト」にニックネームを

おはなし作家の茂木亜希子さんは、アナウンサー、キャスターの経歴を生かした活動のほか、保育士としての仕事、おはなし作家として、絵本もたくさん出版し、とても幅広く活躍中だ。まず、「まめエイト」との出会いを伺ってみた。

「今から４年ほど前に、保育園や幼稚園の年代の子どもたち向けに『まめエイト』が登場する読み物を書いてもらえないかというお話をいただきました。『まめエイト』のキャラクターは、すでにいしやまさつきさんが作られていたので、キャラクターありきでお引き受けすることにしました」と茂木さん。

「まめエイト」は、８種類の豆のかわいいキャラクターなのだが、その時点では、まだそれぞれの豆にニックネームがついていなかった。そこで茂木さんは、まず豆の特長を短い言葉でわかりやすく子どもたちに伝えるような、ニックネームを考えた。リーダーの虎豆はとらくん。小豆はあずちゃん、ひよこ豆はひよりん、紫花豆ははなちゃん、えんどう豆のえんくん、金時豆のきんさん、レンズ豆のレンくん、空豆のそららん。それぞれに「元気でパワフル」「泣き虫だけどやさしい」などといった性格づけをして考えたそうだ。

茂木亜希子さん

●「まめエイト」が絵本の中で大活躍

『だいすき！ まめエイト』のストーリーは、暑い夏が終わったある日、畑でさやがはじけて出てきた小さなまめエイトたちが、園の中に入っていく。しかし、小さすぎて全く園児たちに気づかれず、泣いてしまう。しかし、その水分を吸ったことによって、まめエイトたちはどんどん大きくなり、園児たちがその存在に気づくという展開だ。そして子どもたちと一緒に料理をしてパーティーを開き、豆を使った料理を楽しく食べる。

「豆が水に浸すと、ふくらんで大きくなることも伝えたくて、絵本のシーンに入れました。えんどう豆、小豆、空豆などは保育園や幼稚園世代の子どもたちでも知っているかもしれませんが、金時豆、紫花豆、レンズ豆、虎豆などは知らない子が多いかなと思いながら、ニックネームを考えました」

絵本の中には、おいしそうな豆料理がいろいろ紹介されている。

「絵本の中でパーティーをするのですが、協会にご相談し、ご協力を得て、豆料理を紹介しました。『豆は栄養が豊富で、食べると肌や髪の毛がつやつやになるよ』など、子どもが豆に興味をもってもらえるように、また豆の栄養やはたらきについて楽しく学んでいけるようなシーンも入れて、食育にも役立つような構成にしました」

『だいすき！ まめエイト』は年中・年長児（5・6歳）向けに、2019年2月に発行された。しかし、保育園には、0・1・2歳からの子どもたちが通っている。もっとわかりやすいものもほしいという要望に合わせて、文字を少なくして、2・3・4歳向けにストーリーを少し変えて、『ありがとう！ まめエイト』が2021年3月に発行された。この2冊の他、紙芝居も作られている。

いずれも、保育園や幼稚園に無料で配布されている。『まめエイト』の動画は、YouTubeでも見ることができる。

●絵本の読み聞かせに目覚める

茂木さんは、大学生のときにアナウンサーを目指していたという。

「大学在学中にアナウンサー養成の学校に通いました。FM西東京とむさしFMのお仕事をしてから、NHK長野放送局のキャスター、テレビユー福島のアナウンサーになりました」

その後東京に戻り、結婚して一児の母になった。茂木さんは現在も、コン

サートの司会などアナウンサーとしての仕事を続けていて、むさしのFMでは「子どもおやすみラジオ」のナレーターをつとめている。

「娘に絵本を読んでいたとき、母が毎日、私に絵本を読んでくれていたことが、突然あざやかによみがえったんです。それまで全く思い出したことがなかったのですが、どうしてずっと忘れていたのだろうと自分でも不思議でした。母は教師をしていて忙しかったと思うのですが、私が小学生になっても、寝る前にたくさんの絵本や児童書を読んでくれました。すごいことをしてもらっていたなあと改めて思いました。」

それがきっかけで、茂木さんは絵本の読み聞かせに夢中になった。「絵本を読む人になろう」と決意し、近所の保育園にお願いして、ボランティアとして読み聞かせに通うようになった。

「でも、子どもたちが全然集中して聞いてくれなかったんですよ。自分なりにいろいろ考えて絵本を選びましたし、ベストセラーを書店で買ってきて読んでみても、『つまんない』と言われたり、歩き回ったりしている子もいて、へこみました。」

アナウンサーの経験のある茂木さんならば、きれいな声で上手に読んであげられるはずだが、思うようにいかなかったらしい。茂木さんがお母さんに相談すると、「保育園には0歳から6歳までの子どもがいるでしょう。絵本にはそれぞれ対象の年齢があるから、年齢に合った絵本を読んであげないとわからないでしょ。」とアドバイスされたという。

●子どもの特性を学ぶため保育士に

「それじゃあ、子どもの特性を学んでみよう」と考えた茂木さんは、保育士資格の本を読み始めた。そして保育士を目指して独学で勉強し、2年がかりで資格を取得した。お嬢さんの子育てで大変な時期だったはずだが、その熱意には感心する。

「以前は保育士試験が年に1回で狭き門でした。独学で勉強して合格しましたが、趣味で取得するような資格ではなかったんですね。保育士が不足していますし、資格を取ったのだから、保育士として働くことが大事だと思いました。」

茂木さんの知り合いが、幼稚園に入学する前の子どもたちが通うプレ幼稚園を始めることになり、やってみないと誘われて、保育士として働き始めた。

「全く保育士として働いた経験がなかったので、一から先輩たちに教えてもらいました。いま10年目になり、マネージャーとして、入園希望者の見学のアレンジや保護者の対応なども担当しています。大変なこともありますが、お母さんや子どもたちの笑顔を見ると、やっていてよかったなあと思います。」

●アナウンサーとして続ける発声教育

保育士の仕事のほか、茂木さんは常世晶子さんと二人で、「こどもアナウンス発声協会」を立ち上げた。共同代表をつとめ、子どもたちに向けた発声教育を行っている。

「子どもたちをアナウンサーにしようという活動ではないです。手を上げて、自分の言葉で答えられる子どもを育てることを目指しています。」

茂木さんたちは小学校に紙芝居を持って行き、どういうふうに話をしたら聞きやすいかを子どもたちに説明し、音楽付きで体験してもらっている。

「日本語は50音全部にあいうえおの母音が入っているので、母音をしっかり発音すれば話すときに聞こえやすくなります。肩で息をするのではなくて、おなかで息をする腹式呼吸をすると、安定してお話ができるよ。胸の息づかいになっていると、息が足りずにつっかかってしまうけど、リラックスして腹式呼吸ができるようになると、たっぷりの息で、響く声でつなげて話すことができるよなどと説明します」

実際に子どもたちと一緒に腹式呼吸や発声方法の練習をする。

「楽しい早口言葉や季節を思い浮かべられる言葉、擬音語・擬態語などを紹介すると、子どもたちはとても興味を持ってくれて、『やりたい！』と言ってくれますね。」

現在、「こどもアナウンス発声協会」では、講師として、全国のフリーアナウンサーなど200人ほどが活動している。テキストも出版されていて、母音の無声化や鼻濁音など、大人も学べるような上級編も紹介されている。昨年には、一般社団法人アナウンス発声協会EACCを常世晶子さんと立ち上げ（茂木さんは副理事長）、子どもだけでなく幅広い世代に発声教育の魅力を伝えていこうと奮闘中だ。

●おはなし作家としてのこだわり

保育士として活動しているうちに、茂木さんは次第に絵本を手がけるよう

になった。

『ばななちゃんのおたんじょうびかい』（チャイルド本社）『りんご ごろごろ』『いちといちで』（世界文化社）、『はやくちレストラン』（金の星社）など、多くの絵本や紙芝居を出版している。なかには韓国版が出たものもある。

2021年には、『ファミリーで楽しもう！渋沢栄一かるた』（ほっこりーのプラス）の読み札を担当した。慣れないかるたの出版に苦労したそうだが、このかるたは、東京都北区のふるさと納税の返礼品に採用されている。

茂木さんの作品はどれも言葉や文章のテンポがよく、早くページをめくりたいと思わせるような内容になっている。取材のとき、実際に絵本を何冊か読んでくださった。早口言葉を駆使した『はやくちレストラン』は、特に圧巻だった。こんな言葉、こんな料理名をどうやって思いつくのかというような面白い言葉が、絵本の最初から最後まではじけるように出てくる。アナウンサーとして、保育士として、言葉の音にこだわり、子どもたちが楽しく読めるこまやかな工夫がされているのだと思う。

茂木さんの作品は、出版社のサイトのYouTubeで見ることができるものもある。『りんご ごろごろ』は、保育士姿の茂木さんが登場して歌い、中学生になったお嬢さんが、ピアノの伴奏を担当している。

「私の活動の原動力は、100パーセント、子どもたちとのふれあいです。小学校のアナウンスレッスンで会う子どもたち、プレ幼稚園でお預かりしている子どもたちですね。子どもたちとのふれあいがないと、お話が浮かばないです。子どもたちにも、人とのかかわる楽しみを伝えたいです」

まめエイトシリーズの他、茂木さんが関わった絵本の数々

お豆のおいしさを知るきっかけに

「保育の現場で、『まめエイト』の絵本を読んであげると、子どもたちは大

喜びします。まめエイトがかわいい、かわいい、こんなお豆、知らなかったって。たとえば、あんこは食べていても、あんこが小豆からできていることは知らないんですね『まめエイト』の絵本を読んでくれた幼稚園や保育園からときどき反響が届いて、うれしい。」と、茂木さんは話す。

「最近、おしゃれなカフェやレストランでは、ひよこ豆などが出てくるようになりましたが、まだまだ身近に食べられていないお豆もあります。子どもたちにもっとお豆のおいしさを知ってもらえるといいなと思います。まめエイトたちががんばっている次回作を書きたいなあと思っています。」

最近、茂木さんは「あんこの花」のおけいこに通い始めた。

「友人があんこを絞り出して、美しい花を作る『あんこのお花』の講師になり、習いに行くようになりました。まだ始めたばかりで、きれいに作るのはなかなか難しいいのですが、あんこが食べられるすてきなアートになるので、感動しています。」

「あんこのお花」「和なはアートフード協会　あんこのお花®」

●言葉は楽しいと伝えていきたい

茂木さんは、新型コロナの影響が長引いていて、子どもたちが「おしゃべりも少なめにしなさい」と言われていることが心配だという。

「私は、声に出して楽しむおはなしづくりや活動をしているので、はたして子どもたちのこの後の人生がどうなるのかなと思ってしまいます。新型コロナがちゃんと収まったときに、みんなが自分の言葉を、自分の声で臆せずに発することができる、そういう子どもたちが育ってほしいですね。言葉にするって楽しいなと思ってもらえるような活動をこれからも続けていきたいと思います。」

茂木さんの読み聞かせの様子　（提供／ほっこりーのプレ幼稚園）

■プロフィール

おはなし作家・保育士

埼玉県出身。東京都在住。武蔵野女子大学文学部卒業。元NHK長野放送局キャスター、元テレビユー福島アナウンサー。こどもアナウンス発声協会代表（共同代表　常世晶子）、一般社団法人アナウンス発声協会EACO副理事長。ほっこりーのプレ幼稚園マネージャーなど。著書に『大好き！ マメエイト』『ありがとう！まめエイト』（日本豆類協会）、『こどもアナウンスブック 正しい発声とつたえる力』（子どもの未来社）、『ばななちゃんのおたんじょうびかい』（チャイルド本社）『りんごごろごろ』『いちといちで』（森あさ子絵 世界文化社）、『はやくちレストラン』（森あさ子絵 金の星社）など多数。